

## ギリシャと新通貨の可能性

「一点突破、全面展開」古い記憶が蘇ってきた。大学の入り口のタテカンに赤い文字でよく書かれていたフレーズだ。学生運動の用語とっていたが、孫子の兵法からの引用らしい。

ギリシャと債権団との交渉過程をフラストレーションを感じながら見ていて思い出した。そう言えばギリシャの現政権を支えるのは左翼政党で、マルクス経済学を学んだものも少なからずいると言う。

債権団の提案をとにかく拒否する一点に集中し、それができれば後は展望が開けて自分たちの勝利に繋がる、と言うわけだ。力の弱い側が権力側に立ち向かう戦略の一つだ。

だがそう簡単に展望が開けそうにないのが、新通貨への移行だ。日曜日の国民投票で、現政権の意向通り債権者側の提案へのNOの投票が上まわれれば、ギリシャはユーロ離脱へ向かうと考えられるが、ユーロに留まる選択肢もある。

国民の支持をバックに債権者側に譲歩を迫る。米国もあらためてEU側に圧力をかける可能性がある。

ユーロ離脱を選び新しい通貨（新ドラクマ）に移行する場合は、契約書をユーロから新ドラクマへ切り替えなければならない。それとも既存契約はユーロのままにしておくのか。一定の期間、資本取引規制や株式市場の閉鎖なども実施しなければならない。現在ギリシャはそうした措置を採っているが、国民投票後も継続して一気に通貨の切り替え準備に入るのか。ちょっと考えにくい一点突破、全面展開は、後は何とかなるだろうという楽観的あるいは無責任な面もあるので、そうした選択も排除できない。

さらに二重通貨制の選択もある。対外的にはユーロ、国内では新ドラクマを使う。

いずれにせよ新通貨はユーロに対して大幅に下落する。長期的には為替の下落がギリシャの競争力を改善させるが、短期的な混乱は避けがたい。

一点を突破しても容易に全面展開にならないのが現在のギリシャ問題だ。

ところで市場はこうした複雑な展開に辟易したように見える。ユーロはキャリートレードのポジションの縮小の後、再度金利差に着目したキャリートレードに目を向ける可能性がある。